

カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター

実施機関名： 株式会社日本コンサルタントグループ

24-22-12-089-030

A. バックオフィス	089 データ活用で進める業務連携
システム導入	

コースのねらい	所有するデータを経営資源として管理し、活用することで、社内外の業務の連携を強化できることを理解する。
---------	--

		「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	日 程	
					月 日	時刻
講義内容	1	■ データ活用の基本	<p>(1) データ活用による情報化</p> <p>データとはなにか、どのような活用法があるのか、ビッグデータや、データ活用という言葉に惑わされず、何をすべきなのか、その本質を確認していただきます。 【演習】自社で管理しているデータ、管理できていないデータの棚卸し</p> <p>(2) データの種類と収集方法</p> <p>データの収集方法を体系的に学びます。 日常生活におけるデータ収集をモデルとして、日ごろ利用しているデータや、会社に有効なデータを確認していただきます。 政府が公開している情報の収集方法や利用方法についても利用可能情報としてお伝えします。 【演習】日々のデータ収集内容の分類化</p>	2.0		
	2	■ データマネジメント	<p>(1) データマネジメントの知識体系</p> <p>データ管理に必要な5つの要素をそれぞれ説明します。 そのうえで、データ管理を体系的に管理する観点としてDMBOKを紹介しします。 自社でどのような対応を行っているのか、あるいはどのような対応が必要なのか、検討するきっかけとします。 【演習】自社のデータマネジメント体系の棚卸し</p> <p>(2) データマネジメントの必要要素</p> <p>データ管理が行き届かない原因を検討します。 よくありがちなデータ管理上の不備を事例とともに紹介し、教訓を見つけ、自社での対応を検討します。 【演習】データ管理で自社が陥っている状況とその解決策の整理</p>	2.0	令和6年 10月23日(水)	9:30～16:30 昼休憩 12:00～13:00
	3	■ データ活用と業務の連携	<p>(1) データ活用方法の検討</p> <p>営業情報の管理、分析方法、顧客満足度の分析方法、財務状況の分析方法(経営指標)等を紹介し、活用方法を学びます。 データを使った未来予測は現状を踏まえた推論に留まることを理解し、業務改善と新たな業務企画の両面が必要であることを共有します。 【演習】データ分析方法の仕組みの確認と自社適用の可能性検討</p> <p>(2) データ活用に利用できるアプリケーション</p> <p>エクセルからサブスクアプリに至るまで、データを管理するためのアプリケーション、データ分析するためのアプリケーションを紹介しします。 データ管理や分析結果の表示はできる限りシステムに任せて、人はそれを判断することに注力できる仕組みを考えます。 【演習】自社業務のDX化の構想</p>	2.0		
				合計時間	6時間	

カリキュラム作成のポイント
<p>オープンコースであり、受講生の属性(業種、業態、職位等)が未確定のため、間接業務、直接業務(営業)、経営層のいずれの方にも必要な情報とします。 カリキュラムはデータとは何か、から始まり、データの具体的な活用方法に至るまでを体系的に学べる内容とします。 各単元で自社業務の振り返り演習を行うことで、演習内容を自社業務に転換、自社での活用を促す構成とします。 適宜質疑応答を織り交ぜることで、双方向でのコミュニケーションを行い、コンサルティングに近い形で講義を進めます。 1時間ごとに休憩を取りますが、各時間1回の演習を行うことで自ら考える時間を設けます。</p>